

# 会報 札幌くらぶ

2024年 11月 第107号

編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付  
ホームページ <http://sakyoclub.net/sakyoclub/>

第40回札幌くらぶサロン

## 秋の夜 莉凡さんの非凡な演奏に酔いしれる

9月29日(日)、豊平館で第40回札幌くらぶサロンが開催されました。

中島公園はまだ紅葉が始まっていますでしたが、空が高く秋らしい晴れた日でした。

第1部は、札幌コンサートマスターのヴァイオリン奏者会田莉凡(あいだりばん)さんとピアノの竹花千景(たけはなちかげ)さんをお招きしたサロンコンサートです。

1曲目はヴァイオリンの「シヤ

コンヌ」が演奏されました。物悲しい調で始まりませんが、その後情熱的な旋律に展開し、変化に富んだ曲のもつ美しさが堪能できました。

1曲目の終了後、会田さんからピアノの竹花さんの紹介がありました。竹花さんは、会田さんが5歳から中学3年生まで通った桐朋学園大学付属子供のための音楽教室の講師を務められ、会田さんにとっては、「先生」にあたるそうです。

また、2曲目の前に、1、2曲目にイタリアの作曲家の作品が続くこと、2曲目のバガニーニは超絶技巧の名手として有名であるが、優れたメロディーメーカーであることを知ってもらいたくて、「カンタービレ」を選んだとのことがありました。実際の演奏も、旋律の美しさが実感できる素晴らしいものでした。

3曲目の前に、ミルシテインがウクライナの作曲家であり、「バガニーニ」の24の練習曲をメドレーにしたもので、弾きこなすのがとても難しい曲であるので、うまく弾けたと思ったら拍手してくださいとユーモアを交えた曲の紹介がありました。

この日の中で、この曲だけは会田さんの独奏でしたが、1、2曲目と比較しても会田さんの手の動きが大きく、かつ早いことが分かり、技巧の凄さを感じる曲でした。

4曲目の前に、グリーグが北欧の出身であり、ヴァイオリンソナタを3曲書いていて、そのうち第3番が一番有名な短調の曲であるが、演奏時間が40分

に及ぶので、演奏時間が20分で、美しい曲である「ヴァイオリンソナタ第2番 長調」を選んだとのことがありました。

演奏を終えた会田さんと竹花さん  
お二人の深い信頼関係が演奏にも



再び竹花さんのピアノ演奏が加わり、会田さんのお話とおり、美しい旋律が奏でられる一方で、速く激しい演奏も織りなされる豊かな曲調でした。

アンコールでは、会田さんから「今日はハードなプログラムで、重量級の曲が続いたので、アンコールには皆さんの知っている曲を演奏します」とのお話があり、マスネの「タイスの瞑想曲」が演奏されました。

第2部は、楽員さんをお招きした交流パーティーです。

札幌くらぶの上田文雄会長が作詞した「ブラボー札幌」という名曲(迷曲?)を「ブラボー札幌」に替えて歌って乾杯すると

い、次回のサロンコンサートが待ち遠しい限りです。

会員／岸田貴志

いうちよつと変わった始まり方でしたが、会田さんが各テーブルを回ってくださり、参加者の皆さんと写真を撮ったりして、いつもどおりの楽しい交流パーティーとなりました。

旋律と技巧を楽しむ秋の夜は少し残念でしたが、あっという間に終わってしま



演奏者を囲んでのひととき  
上田会長、八木顧問とともに

# 演奏会を楽しく聴くために

## 八木幸三（札幌くらぶ顧問）

12月〜2月 定期演奏会 Etan シリーズ 名曲コンサート

Etan シリーズ定期演奏会  
第19回

12月26日（木）19：00  
指揮 ユベール・スダーン  
ピアノ エヴァ  
・ゲヴォオルギヤン

### ■池辺晋一郎

#### この風の彼方へ

筆者が所属する北海道作曲家協会の名誉会友でもある池辺晋一郎は、傘寿を迎えた今も精力的に作曲活動を続け、まさに我



ユベール・スダーン

が国作曲界の重鎮である。交響曲、オペラをはじめとする純音楽や映画、TVドラマ、演劇などの劇伴音楽など、多彩なジャンルで実に多くの作品を書き、著書も多い。オーケストラ・アンサンブル金沢の委嘱作品として書かれたこの作品は、終始、不安で不穏な音とリズムながら、とても聴きやすい音楽とのこと。この曲を初演したユベール・スダーンが指揮をしてくれるのも嬉しい。演奏会当日、会場で作曲者自身の駄洒落まじりのプレトークが聞けるのも楽しみだ。

### ■チャイコフスキー

#### ピアノ協奏曲第1番

数あるピアノ協奏曲の中



エヴァ・ゲヴォオルギヤン

© Angelina Golub

でも、これほどポピュラーな作品はグリーグやラフマニノフの第2番ぐらいだろう。それほど万人に親しまれている曲なのだ。初演時には、当時の名ピアニスト、ニコライ・ルビンシュタインに酷評された。もともとチャイコフスキーは、ヴァイオリン協奏曲も初演時には演奏不可能と酷評されていて、批評だけで挫折することはなく、後に2度の大改訂をおこない、ルビンシュタインも積極的にこの曲を演奏している。チャイコフスキーの甘美な旋律は、ベートーヴェンなどを好む辛党には敬遠されがちだが、ロマンチックな甘さにはたまらなく魅力的な一品。

### ■グリーグ

#### 「ペール・ギュント」

#### 第1組曲、第2組曲

ノルウェーの文豪イブセンは、空想家でほら吹き冒険家ペールを主人公にした詩劇「ペール・ギュント」の上演に向けて、その劇音楽をグリーグに依頼した。当初、自分の音楽は劇音楽には向かないと考えていたグリーグだったが、金銭的な理由と、民族的な題材による音楽への興味から作曲を引き受けた。作品は激しい劇的起伏をも見せる彼の代表作となり、詩劇の上演も成功をおさめる。この二つの組曲は、23曲の劇音楽から、作曲家自身が各4曲を自由に選んで、演奏会用に編作された。

### ■伊福部昭

#### ピアノとオーケストラのためのリトミカ・オスティナータ

を提示したという。しかし、武満は、あくまで自分の音楽を貫いた。演奏を札幌に担わせ、千歳でおこなわれた録音では、当初いぶかっていた武満を大満足させた。この時の様子は、故竹津宜男先生が本誌に掲載している。武満が「男らしさのある黒澤映画には、ティンパニが不可欠」と言ったとおり、ティンパニがこの曲に重要な役割を果たしている。



©Yuji Hori

拗に反復する律動的な音楽を意味している。伊福部音楽は、この作曲技法を積極的に用いて、躍動的で力強い彼の持ち味を生み出した。日本の韻文で基礎になっている五・七・五の奇数の律動をモチーフに、旋律は伝統旋法に近いヘクサトニック（6音階）で書かれている。アイヌ音楽の影響を強く受けた作曲家は、その土俗的な雰囲気はこの曲でも遺憾なく醸し出しているが、ゴジラ音楽同様、その共通性を聴き取ることができ

### 第666回定期演奏会

1月25日（土）17：00  
26日（日）13：00  
指揮 広上淳一  
ピアノ 外山啓介

### ■武満徹

#### 「乱」組曲

黒澤明監督が映画「乱」の音楽を武満に依頼したとき「マラーの交響曲第1番」のイメージ



広上淳一

### ■シベリウス

#### 交響曲第2番

筆者は、北欧へはスウェーデンまでしか行ったことがなく、フィンラン

を聴き取ることができ。筆者は、以前にこの曲の自筆譜を見たことがあるが、非常に几帳面に美しく書かれた楽譜に感動した覚えがある。





下野竜也 ©Nanako Ito

モーツァルトの（最後の）3大交響曲は、1788年夏の約3

■モーツァルト

交響曲第41番「ジュピター」

名曲コンサート

2月15日（土） 14:00

指揮 下野竜也

ヴァイオリン 三浦文彰

ピアノ 高木竜馬

ヴォーカル 隠岐彩夏

曲は、交響曲史上奇跡的な結晶と言わなければならない。

下の豊かな自然に触れたことがないのだが、なぜかこの曲を聴くと、その特異な風土の感覚に浸ることが出来る。たぶんフィンランドのイメージが北海道の清澄で冷たい外気と重なるからなのだろうか。それほどに北歐らしい雰囲気を持った交響曲第2番なのだが、シベリウスはこの曲のほとんどを旅先であるイ

タリアのラパツロとフィレンツェで書いている。その滞在地は、暖かな太陽の日差しを受けた温暖な保養地だったようだ。しかし、フィナーレのコーダが発想のきつかけでつくられたこの作品は、彼の交響曲の中でも北歐の風土を内在させた、最も親しまれている作品であることに間違いはないだろう。



隠岐彩夏 ©T.Tairadate



高木竜馬 ©Yuji Ueno



三浦文彰 ©Yuji Hori

ヶ月間という短期間で立て続けに作曲された。どのような目的で作曲されたかは現在も謎だが、困窮した生活を支えるためのおそらく予約演奏会のために書かれたものと考えられる。いずれにしてもこの3

第41番は、第1楽章にはじまる気宇壮大な音楽がいやがうえにもその期待を大きくふくらませる。静かな中にも深い情感が溢れる第2楽章の対位的展開部は、終楽章の壮大なフーガを予見させ、快活なメヌエットを経て壮麗な終楽章へと突き進んでいく。「ジュピター」という副題は、作者自身がつけたものではないが、ローマ神話の最高神の名の通り、その典雅で堂々としたこの作品にふさわしいものだろう。

■羽田健太郎 交響曲「宇宙戦艦ヤマト」

「宇宙戦艦ヤマト」が最初にTV放映されていた頃は、筆者が大学2年生で、東宝特撮映画「海底軍艦」の二番煎じをアニメでやっている程度にしか思っていなかった。しかし、再放送や劇場版が公開され、そのメインテーマが理屈抜きで素敵に感じられるようになった。この作品の西崎義展プロデューサーが、劇場版「宇宙戦艦ヤマト完結編」を切っ掛けに、N響演奏会のために委嘱したのがこの作品。宮川泰の原曲をもとに当時35歳だった羽田健太郎が4楽章による交響曲として作り上げた。

第667回定期演奏会

2月22日（土） 17:00

23日（日） 13:00

指揮 マティアス・パーメルト

■モーツァルト

セレナード第10番「グラン・パルティータ」

モーツァルトは、生涯に13曲の「セレナード」を作曲している。この時代のセレナードは祝



マティアス・パーメルト

■ブラームス

交響曲第3番

ベートーヴェンの、さらにはドイツ音楽の真の後継者になるべく二十年以上の歳月をついやし完成させた交響曲第1番。その後、交響曲第2番、第3番が作曲されたのは、ちょうどブラームスのライバル、ワーグナーが亡くなった年である。19世紀のヨーロッパ音楽界を二分したライバルがいなくなった喪失感と20世紀を目前にひかえモダニズムが萌芽する時代、絶対音楽を極めようとするブラームスは、一種の孤独感に苛まれていたのかも知れない。この曲は、当時恋愛関係にあった25歳の女性歌手の影響があるとされる。イングリット・バーグマンが、年下の若者と恋に落ちる映画「さよならをもう一度」でも用いられた第3楽章の名旋律や第2楽章のアンダンテなど、その美しさの中にどこか寂しさがあり、すべての楽章が静かに閉じられるのは、ブラームスが永遠に憧れた、クララ・シューマンへの想いからだろうか。

(写真協力 札幌交響楽団)

はら かなえ  
 ヴィオラ奏者 原香奈恵さんに聞く

## 音質も音域もヴィオラは素晴らしい



### プロフィール

北海道札幌市出身。3歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校に入学と同時にヴィオラに転向。同大学卒業。2017-2020年、桐朋オーケストラ・アカデミーに在籍、2021-2023年、兵庫芸術文化センター管弦楽団にコアメンバーとして在籍。これまでに、ヴァイオリンを片山淑子、浦川宜也の各氏に、ヴィオラを大野かおる、川崎和憲の各氏に師事。6か月の試用期間を経て、2024年4月1日付で入団。

ジュニアオーケストラのコンサートで



内気で人見知り

生まれも育ちも札幌です。小さい頃は内気で人見知り、大人に囲まれると親の後ろに隠れるような子どもでした。周りと同世代の子ともだけだと、一緒にワイワイ楽しく遊んでいたらいいです。

母に聞いた話によると3歳の頃にヴァイオリンを始めたようです。当時の記憶はないので物心ついた時には楽器を構えていました。最初のヴァイオリンは今も家に飾ってあります。とてもちっちゃくて可愛いです。

母はピアノの先生をしていたのですが、とにかく反発心旺盛な兄妹だったので自分が教えるのは無理と思っただけで、全員弦楽器になりました。1番上の兄はチェロ、2番目の兄はヴァ

3歳の頃 練習中



イオリン、私もヴァイオリンを始めました。父は音楽に関係があるわけではないのですが、趣味で昔ジャズピアノを弾いてたらしいです。クラシック音楽も好きで、家にレコードがたくさん置いてあります。

兄妹3人ともHBCジュニアオーケストラに所属していました。4歳上の兄が最初に入り、次

に6歳上の兄が、私は最後に小学2年生の時に入団しました。下の兄が中学生の時に持ちかえでヴァイオリンを弾いていたので、その時からヴィオラの存在を感じ始めました。

ジュニアオーケストラで思い出に残っている曲は入団して初めての年に弾いた「シエラザード」です。楽しいなあ、ずっとオーケストラをやっていたいなあと思っていました。でもその頃はただふわふわと思っただけでしたから、将来のことなどはまだ何も考えていませんでした。

母は私にオーケストラよりもソロをさせたかったようです。

いつも「もっと練習しなさい」と言うので、疲れてしまっただけ練習が嫌になりました。

私たちが同時に練習をする時音同士が邪魔になって足が出る(?! 喧嘩になるので、母が時間を決めてくれて練習していました。考えてみたらかなり大変なスケジュール管理だったと思います。母もピアノを教えたのでレッスンの前後にご飯を作って、私たちの練習に付き添って、車でレッスンの送り迎えもしてくれて…。子どもの時はそれがどれだけ大変なことなのか、まったくわかっていませんでした。今は本当に感謝しています。

ヴィオラのいい音色に

進学を決める時、ヴァイオリンの先生が東京藝術大学の先生

だったので、母とも相談して「藝大附属高校を受けてみようか」ということになりました。私はボーっとした性格だったので、気付いたら東京に来ていた…という感じです。恥ずかしい話です。しっかりした兄が先に東京に出っていたので、のんびり屋の私でも大丈夫だろうと安心して東京に出してくれたんだと思います。

藝大の受験には併願制度というものがあって、ヴァイオリンで両方とも受験し、ヴィオラの方で受かることができました。せっかくなのでチャンスだったので少しだけ興味もあつたので、思いきって転向してみることにしました。

兄がヴィオラを弾いていた時には「なんだろう？このヴァイオリンよりちょっと大きいやつ。いい音だなくらいにしか思っていないんですけど。その後中学3年の時に参加したセミナーでヴィオラのソロの演奏を初めて聴き、「ヴィオラってこんなにいい音色なんだな」と驚きました。曲はシューマンの「おとぎの絵本」で、ヴィオラの世界に入ってからとても大事なレパートリーのひとつのだと知りました。昔から少しずつヴィオラに縁があつたようです。



## 東京はさみしい…

高校時代は女子学生会館に住んでいました。その頃も人見知りや激しく、初めてのことはばかりで怖いと感じたこともありましたが、楽しいことや色々な経験もできてとても良い刺激をもらえました。それによって自分の世界を広げることができたので、やはり東京へ行ってよかったです。

## アカデミーとバックの頃

札幌にいた中学生まで一人で電車に乗ることはジュニオケの往復だけしかなかったのですが、東京の外出は怖くて友達と遊ぶ時以外の休みの日はだいたい家で引きこもっていました。その頃はガラケーで今のようにネットが使えなかったので、PSPを買ってゲームをずっとしていました。小さい時から机の引き出しに入れて貯めていたお年玉が十万円くらいあったのですが、ゲームを買ったり漫画を買ったりして数ヶ月で使いきってしまった。さすがに親に怒られました。

藝高では1学年1クラスで色々な楽器の人が集まっています。入学し



キムチパーティ その後突然始まる

譜読み会

長唄三味線の人と仲良くなり、さみしい時にはよく夜に長電話していました。もともと趣味も合ったので今でも頻繁に連絡し合う仲です。

大学に入る頃には周りの環境にも慣れ、迷路のような東京メトロやJRにも迷わず乗り換えられるようになり、たまに一人で出かけることも増えました。

大学を卒業したあと、富山の桐朋オーケストラ・アカデミーに3年間在籍しました。富山駅にあるオーバード・ホールでいつも本番がありました。その時にはオケアカの友達と「世界一美しい」と言われたことのあるスタバへ行ったり、黒部ダムが見渡せるトロッコに乗るため少し遠出したりと楽しく過ごしていました。寒ブリと白海老の

天ぷら丼、ゲンゲにノドグロ、どれも最高に美味しかったです。

その後は兵庫芸術文化センター管弦楽団(バック・オーケストラ)に2年間いました。活動拠点の文化センターから少し離れたところにある団地にいたいみんな住んでいたの、よくリハール(リハーサル)の後に部屋に集まって飲んでいました。コアメン

パーは40人ほどで年の近い人が多く、半分くらいは外国人でした。はっちゃけた人ばかりで毎日楽しかったです。もちろん、桐朋のオケアカもですが、オーケストラの活動はとても勉強になりました。世界各地のオーケストラからゲスト奏者を招き、毎回マスタークラスもありました。本当にたくさんの方を教えていただきました。国によって演奏のスタイルやカラーが全然違うことを実感できたことも良い経験になりましたし、色々な国の愉快的仲間たちと一緒に生活して一緒に音楽をつくることが私の宝物です。

バックには3年間しかいられないので、2年目の時この先どうしようかなあと考えていた頃に札幌の募集がありました。友達が「かなえのための席だ!」と言って背中を押してくれた、今しかない!と思いました。

## ヨーロッパ旅行で乾杯



## 新しい毎日と新しい曲

戦っています。今の生活に慣れながら、これから機会があればリサイタルや室内楽などもっと挑戦していきたいです。室内楽はどの編成のものもそれぞれ楽しく好きです。ですがまだまだあらゆる面で不足している部分も多いので、今の環境は学びの場としても本当にとってもいい場所ですし、もっと技術や音楽を磨いていきたいです。

試用期間の時から地方公演には何回か行きましたが、毎回、各地方の美味しいものを堪能させていただいています。十勝清水公演のあと豚丼のために帯広へ移動し、食べて帰ったこともあります。美味しかったです。名物目当てに宿をとるのも楽しいです。

初めての曲がどんどんやってきて目まぐるしい日々ですが、E-flat シリーズではいつも日本人の作品が入っているプログラムなのが面白いなと思ってます。譜読みや練習はとっても大変ですが…。どう弾くべきなんだろうなど考えつつ、毎回

実は留学を考えたこともありますが。とはいってもボヤツと思いを馳せるくらいでちゃんと行動に移したことはありません。札幌のオーディションを受けた頃は将来どうしたいか考えていた時期でした。しかし考えてても何も決まらなかったの、よし、まずは行動してみよう!とヨーロッパ旅行をしてみることになりました。するとハンガリーの街がとても良くて。可愛い屋根の建物や民謡を歌う女性、街の空気感、いいなあと思いました。1年くらいハンガリーに住んで染まってみたいなあと今でもこっそり考えています。なのでアプリを使って少しずつハンガリー語を勉強しています。どれくらい気持ちが続くかはわかりませんが!笑

4月の「札幌プレイヤーズトーク」で榎本朱音さんと熱く語りましたが、ヴィオラは魅力的な楽器です。オーケストラではB♭ヴァイオリンと一緒に内声の緻密な動きで支えたり、またある時は低弦と音楽を引っ張っていったりと様々な役割をしています。またヴィオラだけの音色は優しく、人の声の音域に近いことから耳馴染みよく、心やすくと入ります。もちろん優しい音色だけではなく、田舎のような泥臭さを印象づけるものから、ヴィオラ特有の少し発音が甘くなる楽器ながらパリパリと弾きあげたときの音色のかつこよさは、(かつこよさという単語では表現しきれません!!)どの楽器にも負けない魅力です。そしてヴィオラってオーケストラの中で、なかなかお客様へ音が届きづらいことがあるんですよね。本当に大変な難しいことを弾いてる時もあまり伝わらないんですけど、それがもうなんか逆においしいです。ヴィオラの良さをもっと皆様にお伝えできるようにこれからも頑張ります。

(9月13日)

テラスレストランキタラにて収録

## 第14回JOFCC山形総会開催

第14回日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFCC)山形総会は、コロナ禍の延期を経て5年ぶりに山形で開催され、札幌くらぶからは6名が参加した。参加者の1人の高木事務局長は山形前泊ということもあり、山響ファンクラブによる会場設営に参加することができ感謝を受けた。

JOFCC山形総会は、幹事会、総会、演奏会、懇親会の開催というスケジュールで開催され、札



響くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ(SFPC)、群響ファンズ、名フィル・ファンクラブ及び石川県立音楽堂楽友会の6団体から48名が参加した。幹事会では、総会名称の統一、役員人事、次期開催地について協議し、総会名称統一を除いて総会に提案することが了承され、高木事務局長を次期JOFCC事務局長候補として考えていることで紹介をした。

総会は、佐藤彰山響ファンクラブ代表幹事の歓迎の挨拶で始まり、会長の挨拶では、小野善平群響ファンズ会長が上田文雄札幌くらぶ会長の挨拶を代読した。上田会長はJOFCCの活動の中で、コンサート会場の新規建設運動の結果、山形と高崎が実現し、仙台は建設が計画がされたことを評価していた。

各団体活動報告は、7団体内6団体から提出された2020(令和2)年からの活動報告を集計した総括が発表され、続いて2018(平成30)年改選以降6年ぶりの改選案が提案さ

れ、満場一致で承認され、次期開催地は群響ファンズの主催により高崎市で開催することに決定し、小野会長から早い機会に情報を収集し皆さんにお知らせしたいと話し、長島栄一SFPC会長の閉会挨拶で閉会した。

西濱秀樹山形交響楽協会専務理事による講演会は、オーケストラにおけるコンサートのマネジメントについて行われ、コンサートにおける指揮者やゲストの招聘はいかにして有名人(大物)を招聘するかにかかっており、これにより入場者は大きく変わってくる、山形交響楽団(山響)はこれを成功させ、定期演奏会のチケットは発売から1週間を待たずに完売することが続いている。その後、成功事例が発表され予定時間を30分を超えることとなった。講演会の後、記念撮影に急いで挑み、参加者全員で会場を撤収した。

8月10日午後のやまぎん県民ホール、JOFCC山形総会の参加者は、まるでその開催を祝福するかのような、山形交響楽団による熱のこもった演奏を鑑賞する幸運に恵まれた。同交響楽団育ての親村川千秋氏は、91歳の高齢をものともせず、渾身の力を振り絞って骨太のシベリウスを聴衆にとどけてくれた。「アンダンテ・フェスティーヴ



オ、ヴァイオリン協奏曲二短調作品47、交響曲第2番二長調作品43という、比較的なじみできたプログラム。しかし、奏でられた音楽は盛夏の昼下がりに北歐作曲家独特の納涼感に浸りたいと期待していた聴衆にとつては、意外な、しかし嬉しい誤算であった。洗練されてはいないが、重心の低い、熱っぽい響き。指揮活動の集大成ともいえる巨匠村川氏の想いがひしひしと伝わってきた。入魂のシベリウスであった。

それは、ソロ奏者周防亮介氏にも伝わったのか、協奏曲の大詰めでヴァイオリンの弦が切れるというハプニングをも呼び込んだ。懇親会は、幹事団体挨拶、会長代行挨拶、来賓挨拶、乾杯で始まり、ウェルカムコンサートが山響楽員による弦楽四重奏(第1

ヴァイオリン犬伏里首席コンマス、第2ヴァイオリン堀越瑠生第2首席奏者、ヴィオラ山中保人首席奏者、チェロ渡邊研多郎奏者)で、エルガー/愛の挨拶、モーツァルト/ディヴェルティメント二長調K136第1楽章、山形県民謡/最上川舟唄、花笠音頭を昼間の勢いそのまま、鋭刺とした演奏で披露してくれた。

あり、参加6団体、山響楽員が紹介され、これで閉会となり、それぞれが帰路に就く予定であったが、また西濱山響専務理事が登壇し15分に及ぶ話となり、帰路に着きたい参加者は少し困惑の表情を浮かべていた。

JOFCC事務局長 武藤義典  
札幌くらぶ副会長 村岡範男

## 能登半島地震義援金の報告

3月1日から31日にかけて能登半島地震復興支援金募集を行い、総額15万円の義援金が寄せられました。お届けした義援金について、オーケストラ・アンサンブル金沢を運営している(公財)石川県音楽文化振興財団から、9月吉日付で「礼状」が届きました。被災地や避難所などで行っている慰問公演「ミニコンサート」の費用に充てているとの報告がありました。また、9月からはチャリティーコンサート「復興応援コンサート」が始まり、心の復興支援活動が本格的に動き出したことが、ホームページなどで報じられています。

JOFCC会員である、石川県立音楽堂楽友会代表幹事の能登浩代さんからもメールをいただきました。「8月初めに私も輪島まで行って被害状況など見てきました。道路はまだ波打ち、市内の家々は屋根が地面にそのままになっている光景が残り、朝市通りの火事の後もそのままです。少しずつ復興の兆しは見えますが、街自体の復興は長かかるといっていいでしょう」と、ありました。私たちの支援が、被災者の心に届きますよう祈りたいと思います。

札幌くらぶ事務局長 高木誠一



## 札幌交響楽団専務理事就任にあたって



は年間120回の公演がありま  
すが、1回の入場客は多くて2  
千人弱。入場料収入だけでは運  
営が厳しいのが現状です。

6月下旬に専務理事に就任  
しました荒木太郎と申します。伝  
統ある札幌の一員となること  
ができ大変光栄です。私の使命は  
楽団の経営基盤を強化し、最高  
の演奏を末永く皆様にお届けす  
ることです。どうぞよろしくお  
願いいたします。

前任者と同様、北海道新聞社  
からの出向です。道新では日本  
ハムファイターズや冬季五輪な  
どのスポーツ取材を長く担当し  
ました。日本ハムとの比較を通  
じ、私なりに楽団の課題を整理  
してみました。

札幌では、日本ハム1、2軍選  
手の合計69人を上回る75人  
の楽団員が活躍しています。し  
かし日本ハムは年間80試合(1  
44試合の半分+オープン戦)  
で各試合2万~3万人のチケット  
ト収入が集まるのに対し、札幌

観光地であるほか、今後は世界  
的な半導体事業が予定されてい  
ます。国内外からの来訪者を呼  
び込むことも、重要なテーマと  
考えています。

演奏活動の充実を図るだけ  
なく、私たちの大切な「札幌」の  
名を守るため、「札幌交響楽団」  
の名称とともに商標登録の手続  
を進めています。費用はかさか  
りますが、国際化が進む中、知名  
度の高いブランドとして保護

るには楽団が丸となって地道  
な努力を続ける必要があると考  
えています。

少子化が進む中、ファン層の  
拡大も課題です。この点では上  
田文雄会長が市長時代に始めた  
「フリーストコンサート」の取  
り組みが、実を結びつつあると  
期待しています。

札幌圏の小学6年生全員にキ  
タラで札幌の演奏を鑑賞しても  
らう事業で、今年で20年目を迎  
えました。「二期生」が32歳と  
なり、親子ともにこの経験を持  
つ家庭が増えています。この  
機運を生かし、若い世代が気軽  
に演奏会に足を運べるよう知恵  
を絞っていきます。

クラシック音楽は、言葉の壁  
を越えて世界中で愛される芸  
術・文化であり、エンターテイン  
メントです。北海道は国際的な

## 札幌そして札幌くらぶの皆様との 出合いに感謝！

札幌交響楽団

専務理事 荒木太郎

し、楽団の財産として有効活用  
していきたいと考えています。

課題の多さと重さを前に、身  
が引き締まる思いです。今回執  
筆の機会をいただいたことで、  
自分の考えを一度整理すること  
ができました。深く感謝いたし  
ます。

改めまして10年間大変お世  
話になりました。札幌での思い  
出はたくさんありますが、私の  
演奏活動を支えてくださったの  
は、多くの方々との出合いでし  
た。

まずはなんとと言っても札幌の  
団員の方々、そして事務や舞台  
スタッフの方々との出合いに支  
えられました。嬉しい時、楽しい  
時、そして何より本番で理想の  
音楽に少しでも近づけた時、一  
緒に喜び褒め称え合う仲間がい  
るということは本当に幸せなこ  
とだと感じました。

皆さんの尊敬する仲間がい  
ますが、あえて名前を上げるな  
ら、2017年に退団されたト

10年間で尾高さん、エリシユカ  
さん、ボンマーさん、バーメルト  
さん、と指揮者が変わって行き、  
彼らから音楽的なこと、思想な  
ど多くのことを学びました。

尾高さんからはオケでの所作  
や周りの演奏家のために気をつ  
けるべきことなど、基本に忠実  
なことをたくさん教えていただ  
きました。続く三人の外国人指  
揮者の方々とは、どなたも80歳前  
後で、指揮する手元はおぼつか  
ないのですが、お三方とも個性  
や人柄に由来する音楽性が滲み  
出ていました。やはり音楽の最  
後の味付けは人間味なんだなど  
感じました。

最後になりましたが、演奏会

を聴きに来てくださるの方々、そ  
して応援してくださる札幌くら  
ぶの皆様との出合いにも大変支  
えられました。

札幌くらぶの皆様には、日頃  
から札幌を盛り上げることに  
力添え頂いておりますが、特に  
印象に残っているのはコロナ禍  
で演奏会中止になった時期のこ  
とです。寄付金やクラウドファ  
ンディングも、もちろん嬉しか  
ったのですが、それ以上に私が覚  
えているのは、札幌くらぶの皆  
様からは大量のマスクケースを  
頂いたことです。きつと何を送  
ったら札幌のためになるか、い  
つばい考えてくださったのだろ  
うなということが伝わり、心が  
温かくなったのをよく覚えてい  
ます。

札幌を通じて多くの方と出会  
い、それに支えられてこの10年  
間演奏活動をする事ができま  
した。これからは、私の音楽は札  
幌で育ててもらいました！と胸  
を張って、新天地でも活躍でき  
るように頑張っていきたいと思  
っております。

10年間本当にありがとうございました。

元札幌ホルン首席奏者

山田圭祐



2017年10月定期演奏会  
ホルン首席奏者山田圭祐引退時の  
金管セクション

### 漏れこぼれる夕映えの輝き

〇眠りにつくとき―

「4つの最後の歌」より

(R・シユトラウス)

グンドウラヤノヴィッツ

(ソプラノ)

ヘルベルトフォンカラヤン指揮

ベルリンフィルハーモニー

管弦楽団

(73年録音)



沌としていた少年にとって、ヘッセ文学は何と魅惑に包まれた園だったのだろう。

そのヘッセが30代に書きとめた詩「眠りにつくとき」Bei Schlafengehenに素敵な音楽を添えたのが最晩年のR・シユトラウスである。人生の終着駅を予感したシユトラウスにとって、「一日のいとなみに疲れて…」(高橋健二訳)で始まるヘッセの詩は当時の心境を代弁していたのであるうか、音楽はたとえようもなく官能的で、それについて一抹のはかなさをのぞかせるヴァイオリン・ソロに導かれてモノローグ風に運ばれてゆく。

強烈な自我と瑞々しい詩情との絶妙の調和、危なっかしくも好奇心を刺激せずにはいないさすらいへのいざない。僕たち団塊の世代にとってヘルマン・ヘッセは中学・高校時代のアイドル的存在であった。彼の作品を知らなければ、友人同士の会話

から締め出され、肩身の狭い思いをしたものだった。必死になつて読み耽つた。なかでも孤独の寂寥感と満ち足りた安らぎが交錯する『クヌルプ(漂泊の魂)』、ほのかなエロティシズムさえ発散させながら読者を放浪の彼方の世界へと駆り立てる『知と愛』、夢と芸術の狭間で混

大編成のオーケストラに囲まれた、こうした歌曲を振らせたからカラヤンの右に出る者はいないだろう。巧みなコントロールによる音符群の谷間から漏れこぼれる夕映えの輝きがたとえようもなく美しいと同時に、クリスタル・ガラスのように透明で輪郭のはっきりしたヤノヴィッツの声質が作曲者の「白鳥の歌」の品格を限りなく高めている。ドイツ・ロマン派音楽の到達点にふさわしい名盤となっている。

### お元気でご活躍ください



ホルン首席奏者 山田圭祐さん

2024年9月30日退団

会員/村岡範男

### 運営スタッフ活動報告 上半期(4月~9月)

04月7日(日)

第39回礼響くらぶサロン 豊平館52名参加

第1部 礼響定期プレトーク 礼響くらぶ顧問 八木幸三さん

第2部 サロコンサート オーボエ 浅原由香さん

ピアノ 片山 柊さん

第3部 交流パーティー

04月21日(日) 茶話会「礼響くらぶカフェ」 10名出席

04月29日(月・祝) 運営会議15名出席

05月8日(水) 札幌市中学校吹奏楽 研究協議会総会参加

礼響くらぶ 参加者2名

05月20日(月) 会報106号発送

05月26日(日) 運営会議17名出席

札幌市内中学生招待活動

前田北中学校 21名

茶話会「礼響くらぶカフェ」 10名出席

06月24日(月) 運営会議14名出席

06月30日(日) 茶話会「礼響くらぶカフェ」 8名出席

07月15日(月・祝) 運営会議17名出席

08月10日(土) 第14回JFCC山形総会参加

礼響くらぶ 参加者6名

08月19日(月) 会報106号発送

09月13日(金) 運営会議18名出席

09月14日(土) 練習見学会参加

09月15日(日) 札幌市内中学生招待活動

丘珠中学校 6名

09月15日(日) 札幌市内中学生招待活動

石山中学校 6名

茶話会「礼響くらぶカフェ」 20名出席

花束贈呈

ホルン首席奏者 山田圭祐さん

09月23日(月・祝) 運営会議18名出席

09月29日(日) 第40回礼響くらぶサロン

豊平館69名参加

第1部 サロコンサート

ヴァイオリン 会田莉凡さん

ピアノ 竹花千景さん

第2部 交流パーティー

### スタッフの声

▼音楽を聴くメディアがCDからアップルミュージックの様なサブスクが中心に。演奏会の予習用の音源を探すのも、未聴のマイナーな曲もこれなら心配ない。スマホで解決。録音毎の聴き比べも容易。学生時代に玉光堂や駅前通りの山野楽器で散々迷って、廉価版一枚を購入していた頃とは大違い。当時は迷ったらベルリンフィル。でも、サブスクのせいか音楽が所有物から消費物に変化したよう豊かさの中に寂しさを感じるこの頃です。(高橋)

▼秋の日、手作りの小さな音楽ホール「蘭越バームホール」に足を運んだ。メン・ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノが浪漫派の旋律を奏で、セピア色の響きに浸った。窓越しにコスモスの花とイチイの赤い実、暮れゆく羊蹄山を眺めながら、R・シユトラウスの「あした！」を聴いて涙があふれた。夢のようなひと時であった。地元愛好者らが運営するこのホールは、今年「サントリー地域文化賞」を受賞した。(えんどびん)